

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） 分担研究報告書

生活・療養環境による要望特性に応じたがん情報提供・相談支援体制の在り方：
地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及に関する研究
- 地域の医療・療養情報提供体制の検証研究、地域情報づくりモデルの提案、
支援人材介入モデルの検討 -

研究分担者 渡邊 清高 帝京大学医学部内科学講座 准教授

研究要旨

診療施設や介護療養支援施設、事業所、窓口、公共図書館、患者会・患者支援団体などの特性によって、対応する支援や相談・情報提供のニーズを明らかにし、がん患者と家族向けの支援活動の実態を把握することを目的として行ったアンケートの回答を実施地域ごとに分析した。平成 29 年に実施し回答を得た 763 レコードを分析、6 都県におけるさまざまな施設属性・専門性を有するがんの情報提供・相談支援の項目に関して、課題の現状把握と連携ニーズに関する結果を分析した。拠点病院のがん相談支援センターでは幅広い情報提供・相談ニーズを持ち、訪問看護ステーションや介護施設では在宅ケア、生活支援、市区町村窓口では予防・検診・健康教育のニーズが高いなど、属性機能に応じたニーズの表明がなされていた。地域と施設属性により連携の規模が異なり、拠点病院では広域、介護福祉施設は学区域から市区町村単位での連携ニーズが高かった。6 都県でのニーズの差異は、地域の医療・介護・福祉施設の設置状況を踏まえた、利用者である患者・家族のニーズおよび施設そのものの課題意識を反映していた。がんの経過に応じて発生する多様なニーズに対して、さまざまな専門性を有する関係者がニーズに応じた情報を整備し、支援体制の標準化を推進し、教育研修機会を確保することによって、がん患者と家族が必要とする情報や支援によりつながりやすくなる可能性がある。当該地域における調査によって、多様なニーズに対して情報を整備し、支援体制の標準化につながると考えられた。

A. 研究目的

がんに関わる相談支援と情報提供は、第 3 期のがん対策推進基本計画（平成 29 年 10 月）において、さまざまな領域においてその重要性が強調されている。

がん診療連携拠点病院などに設置されているがん相談支援センターを中心として幅広いニーズに対応しているが、情報コンテンツとして医療機関・症状・治療・費用などの正確な情報とアクセスできる環境の整備を進めることが示されている。一方で、がん相談支援センターの利用率は 7.7% と未だ低く、国民向けの認知の必要性も指摘されている。がん患者と家族がその経過において必要となる医療・療養・在宅・連携・費用・就労や集学などの情報をどのように整備し、必要に応じて適時に提供していくかが課題といえる。

がん診療連携拠点病院など、がん医療の基幹施設に加えて、患者のフォローアップやケアにおいて役割を担う診療所や訪問看護や介護事業所、自治体の窓口、患者支援団

体などでどのような相談や情報提供ニーズがあるかについては、明らかではない。本研究では、診療施設や介護療養支援施設、事業所、窓口、公共図書館、患者支援団体などの特性および地域によるニーズの差異を明らかにし、がん患者と家族向けの情報提供の推進と、支援体制の充実に向けた連携のニーズを把握することを目的として調査を行う。

B. 研究方法

1. 調査目的

一般社団法人日本癌治療学会による「がんネットワークナビゲーター制度」が先行している地域や地域におけるがん相談が活発なモデル地域（群馬、東京、神奈川[相模原市]、福岡、熊本、大分）における、がん患者と家族向け支援の現状とニーズをもとに、施設や地域ごとの差異を明らかにし、全国で応用可能な支援体制や相談支援・情報提供・連携構築に有用なモデルを提案することを目的とする。

2. 調査対象

先行地域(群馬・東京・神奈川・福岡・熊本・大分)における、がん患者さんご家族の支援(相談対応・情報提供・連携を行う施設を抽出した。具体的には、がん診療連携拠点病院、がん診療連携病院、地域統括相談支援センター、病院、診療所、保険薬局、地域包括支援センター、訪問看護事業所、ケアセンター、市区町村窓口、保健所、公共図書館、患者会・患者団体などからなる。主に相談支援や情報提供を業務として行う専門の施設・窓口に加え、日常業務を行うなかで、がん患者や家族と接して当事者向けへの相談対応や情報提供を行っている機関を対象とした。同一施設や住所地に2部署以上同様の機能を担っている施設がある場合には、それぞれ回答を提出いただくこととした。

調査方法の詳細は平成29年の分担報告書を参照されたい。

3. 調査概要

がん患者と家族の支援や情報提供に関して、施設属性・患者家族との関わっている内容での課題・情報提供と相談支援の実施体制・活動の概要・現状の課題・ニーズを感じている項目、研修や教育制度のニーズについての内容からなる。

4. 倫理的な配慮および個人情報の取り扱い
本調査は患者を対象とせず、相談対応を行う施設および担当者を対象とする実態調査であるため、人を対象とする臨床研究に該当しない。調査票において、回答者の氏名、連絡先(勤務先住所・電話番号・FAX・電子メールアドレス)を収集した。

これらは回答内容の照会に必要な用途にのみ使用し、個別の施設名および個人情報は解析では扱わず、その旨を協力依頼文に明示した。調査への協力意向は回答の送付を持って同意とみなした。

C. 研究結果(分担報告書添付資料)

2017年10月に協力依頼文とともに調査票を送付、回収状況を踏まえて11月に未回答施設に対して再依頼とともに調査票の送付を行った。2017年12月に回答を締め切り、集計を行った。

1. 送付施設と回答施設(資料1)

2,004施設に送付を行い、763施設から回答を得た。回収率は38.1%であった。

施設の属性と回答数・回答率の内訳は、病院(がん診療連携拠点病院)50施設回答、病院(一般)68施設回答、診療所138施設回答(回答率39.9%)、地域包括支援センター48施設回答(回答率44.9%)、保健所29施設回答(回答率67.4%)、市区町村の窓口37施設回答(回答率36.3%)、訪問介護事業

所4施設回答(回答率19.0%)、訪問看護事業所87施設回答(回答率36.9%)、居宅介護支援事業所・ケアセンター136施設回答(回答率56.4%)、保険薬局3施設発送、29施設回答(回答率67.4%)、市区町村の窓口102施設発送、37施設回答(回答率36.3%)、訪問介護事業所21施設発送、4施設回答(回答率19.0%)、訪問看護事業所236施設発送、87施設回答(回答率36.9%)、居宅介護支援事業所・ケアセンター241施設発送、136施設回答(回答率56.4%)、保険薬局248施設発送、103施設回答(回答率41.5%)、公共図書館43施設発送、27施設回答(回答率62.8%)、患者会53施設発送、30施設回答(回答率56.6%)、その他330施設発送、6施設回答(回答率1.8%)であった。なお、施設属性内訳は、回答あり施設の回答内容に応じて記載した。回答なし施設は送付情報のままとしている。

2. 相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

763の回答のうち、複数回答で「相談支援や情報提供の実施でニーズを感じている」という回答が多かったものは、在宅医療506件(66.3%)、ホスピス・緩和ケア506件(66.3%)、医療費・生活費・社会保障制度466件(61.1%)、不安・精神的苦痛464件(60.8%)、医療者との関係・コミュニケーション452件(59.2%)、症状・副作用・後遺症436件(57.1%)、患者・家族間の関係・コミュニケーション416件(54.5%)、がんの治療421件(55.2%)、医療機関の紹介390件(51.1%)、介護・看護・養育370件(48.5%)、がんの検査354件(46.4%)、食事・服薬・入浴・運動・外出など343件(45%)、セカンドオピニオン340件(44.6%)、告知327件(42.9%)、受診方法・入院322件(42.2%)、グリーフケア・遺族ケア309件(40.5%)と続いた。最もニーズを感じているものを1つ選択する設問に対しては、在宅医療14.8%、がんの治療9.3%、不安・精神的苦痛8.3%、ホスピス・緩和ケア7.8%、医療者との関係・コミュニケーション7.5%、医療費・生活費・社会保障制度7.1%、患者・家族間のコミュニケーション5.8%、がん予防・検診5.6%という結果であった。

施設属性ごとのニーズについては、以下の結果であった。

- 拠点病院で感じているニーズは治療・検査・症状・セカンドオピニオン・紹介・在宅・緩和・社会保障制度・不安や精神的苦痛、患者会情報、グリーフケアなど幅広い。
- 一般病院・診療所・薬局では治療・在宅・緩和ケアのニーズが高かった。

- 訪問看護事業所で、症状・セカンドオピニオン・在宅・緩和ケア・社会保障制度・コミュニケーション・健康教育に加えスタッフのストレスマネジメントのニーズが高く、患者の治療、療養、ケア、社会的支援、精神的支援などの幅広い支援を行っている、あるいは行いうる場である可能性を示唆している。
- 居宅介護支援事業所・ケアセンターではホスピス・緩和ケア、不安・精神的苦痛、コミュニケーション、グリーフケアに関するニーズが高く、看取りの時期の支援ニーズの可能性がある。
- 市区町村の窓口・保健所・公共図書館では、医療機関の紹介や予防検診、健康教育を含めた幅広い情報ニーズがある。
- 患者会・患者支援団体は、治療・検査・症状・在宅、ホスピス・緩和ケア、コミュニケーション・不安や精神的苦痛、患者会情報、グリーフケアなど幅広いニーズがある。

3. がん診療連携活動でニーズを感じているもの

763 の回答のうち、複数回答で「がん診療連携活動でニーズを感じている」と回答の多かったものは、相談の説明・紹介 452 件 (59.2%)、受診の説明 426 件 (55.8%)、地域(市区町村)における情報交換・研修会への参加 400 件 (52.4%)、地域(2次医療圏)における情報交換・研修会への参加 285 件 (37.4%)、地域連携クリティカルパスの説明・運用支援 279 件 (36.6%)と続いた。

最もニーズを感じているものを 1 つ選択する設問に対しては、相談の説明・紹介 24.8%、地域(市区町村)における情報交換・研修会への参加 17.9%、受診の説明 17.4%、地域連携クリティカルパスの説明・運用支援 11.6%、地域(2次医療圏)における情報交換・研修会への参加 9.9%、地域(学区域程度)の情報交換・研修会への参加 6.9%、都道府県における情報交換・研修会への参加 6.8%という結果であった。

施設属性ごとの連携ニーズについては、以下のようにまとめられた。

- 地域における潜在的な相談支援・情報提供のニーズを見ている可能性がある
- 全国や他地域の比較により、地域の特性を把握できる可能性がある
- 潜在的なニーズに対応する相談支援・情報提供の対策に結びつく

一方で、

- 施設別に対応している役割を反映している
- 調査時点で協力可能な施設・地域からの回答であり、直接の患者・家族のニーズを捉えているわけではない

- 職種・地域・調査施設の属性の偏りが地域ごとにあるため、厳密な地域比較は難しい
- 調査で捉えられるニーズ：施設の担当者の感じるニーズ：患者・家族のニーズを可視化し、特性に応じた介入ポイントを知るきっかけになる

4. モデル地域における特性分析

全国平均との比較で特徴的なものをまとめた。

1. 群馬(資料2)

- 情報提供・相談支援に関するニーズ
- 全国と比べて、以下の項目が低く提示された。
がんの検査、症状・副作用・後遺症、セカンドオピニオン、臨床試験・先進医療、医療機関の紹介、がん予防・検診、在宅医療、ホスピス・緩和ケア、介護・看護・養育、医療費・生活費・社会保障制度、生きがい・価値観、不安・精神的苦痛、告知、患者-家族間の関係・コミュニケーション、職場の人間関係・コミュニケーション、患者会・家族会(ピア情報)、健康教育(がん教育)、気持ちの整理(ストレスマネジメント)、グリーフケア(遺族ケア)、苦情・トラブル
- 全国と比べて、全般的にニーズが少ない傾向にあった(介護事業所を主体とした調査のためか)
- 最もニーズを感じているのは、在宅医療、症状・後遺症・副作用
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
- 群馬で、全国と比較して高いと感じているニーズとして特徴的なものはみられない
- 診療・相談に関する連携活動、市区町村域での連携ニーズが高い
- 最も高いとするニーズとして、全国に比べて、地域連携クリティカルパスの説明・運用支援が挙げられていた(17.9%、+2.9%)

2. 東京(資料3)

回答数が 28 と比較的少なめのため、解釈に留意が必要

- 情報提供・相談支援に関するニーズ
- 全国と比べて、以下の項目が高く提示された
がんの検査、治療実績、臨床試験・先進医療、食事・服薬・入浴・運動・外出など、医療者との関係・コミュニケーション、患者-家族間の関係・コミュニケーション、職場の人間関係・コミュニケーション、健康教育(がん教育)、遺伝力

ウンセリング、気持ちの整理(ストレスマネジメント)、グリーフケア(遺族ケア)

- 全国と比べて、以下の項目が低く提示された
がんの治療、在宅医療、転院
- 全国と比べて、先進的な医療へのニーズが高め(相談窓口として実働の可能性)
- 最もニーズを感じているのは、在宅医療、介護・看護・養育、患者・家族間の関係・コミュニケーション
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
- 東京で、全国と比較して高いと感じているニーズとして
地域(学区程度)の情報交換・研修会への参加
- 都道府県、広域における情報交換・研修会への参加も高く、機能分化・役割分担を反映している可能性
- 最も高いとするニーズとして、相談の説明・紹介(28.6%、+3.8%)

3. 神奈川(相模原)(資料4)

情報提供・相談支援に関するニーズ

- 全国と比べて、以下の項目が低く提示された
がんの治療、治療実績、がん予防・検診、在宅医療、ホスピス・緩和ケア、社会生活(仕事・就労・学業)、医療費・生活費・社会保障制度、補完代替療法、生きがい・価値観、不安・精神的苦痛、告知、医療者との関係・コミュニケーション、患者・家族間の関係・コミュニケーション、職場の人間関係・コミュニケーション、患者会・家族会(ピア情報)、健康教育(がん教育)、気持ちの整理(ストレスマネジメント)、グリーフケア(遺族ケア)、苦情・トラブル
- 全国と比べて、全般的にニーズが少ない(介護事業所を主体とした調査のため?)
- 最もニーズを感じているのは、在宅医療、がんの治療、ホスピス・緩和ケア、医療費・生活費・社会保障制度、不安・精神的苦痛、医療者との関係・コミュニケーション
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
地域(学区程度)の情報交換・研修会への参加
市区町村域、2次医療圏、都道府県域における情報交換・研修会への参加ニーズはやや低く、機能分化・役割分担を反映している可能性
- 最も高いとするニーズとして、相談の

説明・紹介(24.2%)

4. 福岡(資料5)

情報提供・相談支援に関するニーズ

- 福岡で多いと感じているニーズは臨床試験・先進医療、がん予防・検診、介護・看護・養育、生きがい・価値観、患者会・家族会(ピア情報)、健康教育(がん教育)、グリーフケア・遺族ケア
- 特徴的な項目は、補完代替療法(17.6%、+3.2%)、遺伝カウンセリング(12.2%、+3.2%)
- 福岡で最も多いと感じているニーズは、がんの治療、在宅医療
- 全国と比べて、症状・副作用・後遺症、医療費・生活費・社会保障制度のニーズの表明は少ない
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
- 福岡で、全国と比較して高いと感じているニーズとして特徴的なものはみられない
- 診療・相談に関する連携活動、市区町村域での連携ニーズが高い
- 最も高いとするニーズとして、全国に比べて、市区町村域での情報交換会・連携の会への参加が挙げられていた(22.7%、+4.8%)

5. 熊本(資料6)

情報提供・相談支援に関するニーズ

- 熊本で多いと感じているニーズはがんの治療、がんの検査、症状・副作用・後遺症、セカンドオピニオン、治療実績、在宅医療、ホスピス・緩和ケア、医療費・生活費・社会保障制度、不安・精神的苦痛、告知、医療者との関係・コミュニケーション、患者・家族間の関係・コミュニケーション
- 特徴的な項目は、告知やコミュニケーション、セカンドオピニオン
- 全国と比べて、全般的にニーズが高めであった(ニーズが高い/ニーズを把握できている/可視化できている)
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
- 熊本で、全国と比較してがん診療連携に関するニーズを高めに感じている
- 地域連携クリティカルパスの説明・運用支援(47.1%、+9.5%)、市区町村域での連携ニーズが高い
- 学区程度、2次医療圏域、都道府県域における連携ニーズも高めであった

6. 大分(資料7)

回答数が51と少ないため、解釈に留意が必要

情報提供・相談支援に関するニーズ

- 全国と比べて、以下の項目が高く提示された
医療機関の紹介、がん予防・検診、食事・服薬・入浴・運動・外出など、社会生活（仕事・就労・学業）医療費・生活費・社会保障制度、生きがい・価値観、告知、医療者との関係・コミュニケーション、患者・家族間の関係・コミュニケーション、職場の人間関係・コミュニケーション、患者会・家族会（ピア情報）健康教育（がん教育）気持ちの整理（ストレスマネジメント）グリーフケア（遺族ケア）苦情・トラブル
- 全国と比べて、以下の項目が低く提示された
がんの検査、臨床試験・先進医療・全国と比べて、一般的にニーズが高め（相談窓口として実働の可能性）
- 最もニーズを感じているのは、在宅医療、生きがい・価値観
がん診療連携活動でニーズを感じているもの
- 大分で、全国と比較して高いと感じているニーズとして
相談の説明・紹介、地域（2次医療圏）における情報交換・研修会への参加ニーズ
- 市区町村、2次医療圏、都道府県における情報交換・研修会への参加ニーズが全体に高め
- 最も高いとするニーズとして、全国に比べて、相談の説明・紹介、都道府県における情報交換・研修会への参加が挙げられていた
- 連携を志向する施設が多かった可能性

D. 考察

本調査は、6都県におけるさまざまな専門性と地域性を有する医療者・相談支援者・仲介者を対象とし、相談員、医療介護福祉職、市区町村窓口、図書館、保険薬局、患者団体など多様な場において患者・家族の情報提供や相談支援のなり手となりうる関係者に協力をを行い実施した調査である。予防や検診、診断治療、療養や在宅、連携や介護、緩和ケア・グリーフケアなど、がん患者や家族がそのニーズに応じて相談や情報支援を受ける場合に活用する可能性のある関係者に幅広くご協力いただいで実施した。

763施設から回答を得て、その施設属性はがん診療連携拠点病院、拠点病院以外の病院、診療所、地域包括支援センター、保健所、市区町村の窓口、訪問介護事業所、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所、保険薬局、公共図書館、患者会など多岐に渡っていた。調査対象の属性により、相談や情報提供ニーズを感じている内容や連携ニーズは多様で

あった。施設属性による特徴の違いはあるものの、大半の施設が、がん患者と家族の情報提供と相談支援のニーズを感じており、その実施について、情報の内容、対応する窓口の整備、関係者への認知、対象となる患者・家族・一般市民への啓発、研修教育の機会の確保などさまざまな課題を実感していることが明らかになった。

情報提供や相談支援のニーズにおいて、地域の特性を分析することにより、以下のことがわかった。

- 地域における潜在的な相談支援・情報提供のニーズを見ている可能性がある
- 全国や他地域の比較により、地域の特性を把握できる可能性がある
- 潜在的なニーズに対応する相談支援・情報提供の対策に結びつく

一方で、

- 施設別に対応している役割を反映している
- 調査時点で協力可能な施設・地域からの回答であり、直接の患者・家族のニーズを捉えているわけではない
- 職種・地域・調査施設の属性の偏りが地域ごとにあるため、厳密な地域比較は難しい
- 調査で捉えられるニーズ：施設の担当者の感じるニーズ：患者・家族のニーズを可視化し、特性に応じた介入ポイントを知るきっかけになる

また、がんの診療連携でのニーズにおいて、地域の特性を分析することにより以下のことが明らかになった。

- 地域における潜在的ながん診療連携のニーズを見ている可能性がある・全国や他地域の比較により、地域の特性を把握できる可能性がある
- 連携活動の現状把握と活性化に向けた対策に結びつく
- 地域連携パスなど、ツールや顔の見える関係の活用状況を捉えている可能性がある
- 市区町村・学区域など、圏域に応じたきめ細かな介入モデルの提示につながる可能性

一方で、

- 施設別に対応している役割を反映している
- 調査時点で協力可能な施設・地域からの回答であり、直接の患者・家族の連携ニーズを捉えているわけではない
- 職種・地域・調査施設の属性の偏りが地域ごとにあるため、厳密な地域比較は難しい

- 調査で捉えられるニーズ：施設の担当者の感じるニーズ：地域の特徴あるニーズを可視化するきっかけになる

地域や職種、属性ごとに分析を進めることによって、患者・家族がさまざまな段階で抱える情報・相談支援ニーズに応じた対応策やノウハウが蓄積され、よりよい情報提供・相談支援体制の整備につながることを期待される。また、都道府県のがん対策推進協議会やがん相談・情報提供部会、がん診療連携拠点病院がん相談支援センターのがん相談専門員、日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーターなど、地域においてがんの相談支援や情報提供に関わる関係者が、地域のニーズに応じた対応策を講じたり、情報コンテンツや相談対応マニュアルの整備や顔の見える連携づくりなど先進的な取り組みを取り入れたりすることで具体的な患者・家族支援につながるモデルを構築することが可能になると期待される。

E. 結論

6 都県におけるさまざまな専門性と地域性を有する施設に対するアンケートを行った。がんの情報提供・相談支援に関わる課題の現状把握をもとに、情報提供・相談支援ニーズと連携ニーズに関する調査を実施した。がんの経過に応じて発生する多様なニーズに対して、さまざまな専門性を有する関係者がニーズに応じた情報を整備し、支援体制の標準化を推進し、教育研修機会を確保することによって、がん患者と家族が必要とする情報や支援によりつながりやすくなる可能性がある。今後さらなる分析やモデル事業の実施と検証をとおして、患者・家族向けの情報提供や相談支援体制の充実と均てん化に繋げることが期待される。最後に、ご協力いただいた回答施設の関係者の皆さまに御礼申し上げます。

F. 研究発表

1.論文発表

- 1) Seki N, Natsume M, Ochiai R, Haruyama T, Ishihara M, Fukasawa Y, Sakamoto T, Tanzawa S, Usui R, Honda T, Ota S, Ichikawa Y, Watanabe K. Promising Combination Therapy with Bevacizumab and Erlotinib in an EGFR-Mutated NSCLC Patient with MET Amplification Who Showed Intrinsic Resistance to Initial EGFR-TKI Therapy. Case Rep Oncol. 2019 Jan 21;12(1):91-97. doi:

10.1159/000493088. eCollection 2019 Jan-Apr.

- 2) Seki N, Ochiai R, Haruyama T, Ishihara M, Natsume M, Fukasawa Y, Sakamoto T, Tanzawa S, Usui R, Honda T, Ota S, Ichikawa Y, Watanabe K. Need for Flexible Adjustment of the Treatment Schedule for Aprepitant Administration against Erlotinib-Induced Refractory Pruritus and Skin Rash. Case Rep Oncol. 2019 Jan 21;12(1):84-90. doi: 10.1159/000493256. eCollection 2019 Jan-Apr.
- 3) Ota S, Fujigaki Y, Tamura Y, Kojima K, Ochiai R, Haruyama T, Ishihara M, Natsume M, Fukasawa Y, Sakamoto T, Tanzawa S, Usui R, Honda T, Ichikawa Y, Watanabe K, Seki N. Significance of Earlier Initiation of Chemotherapy for Lung Cancer Complicated with Primary or Secondary Nephrotic Syndrome following Its Appropriate Differential Diagnosis. Case Rep Oncol. 2019 Jan 11;12(1):53-58. doi: 10.1159/000493851. eCollection 2019 Jan-Apr.
- 4) Ota S, Sakamoto T, Ochiai R, Haruyama T, Ishihara M, Natsume M, Fukasawa Y, Tanzawa S, Usui R, Honda T, Ichikawa Y, Watanabe K, Sasajima Y, Mizota A, Seki N. Successful Treatment with Taxane-Based Chemotherapy in Advanced Sebaceous Carcinoma: A Case Report and Literature Review. Case Rep Oncol. 2019 Jan 11;12(1):47-52. doi: 10.1159/000493850. eCollection 2019 Jan-Apr.
- 5) Natsume M, Watanabe K, Matsumoto S, Naruge D, Hayashi K, Furuse J, Kawamura M, Jinno H, Sano K, Fukushima R, Osawa G, Aruga E, Hashiguchi Y, Tanaka A, Takikawa H, Seki N. Factors Influencing Cancer Patients' Choice of End-of-Life Care Place. J Palliat Med. 2018 Jun;21(6):751-765. doi: 10.1089/jpm.2017.0481.

2.学会発表

- 1) 渡邊 清高, 調 憲, 浅尾 高行, 相羽 恵介, 佐々木 治一郎, 藤 也寸志, 竹山 由子, 片淵 秀隆, 境 健爾, 吉田 稔, 矢野 篤次郎, 加藤 雅志, 富田 尚裕,

- 西山 正彦 . 6 都県における情報提供と相談体制がん医療ネットワークナビゲーターの普及に向けて . 第 56 回日本癌治療学会学術集会 , 横浜 , 2018.10.19
- 2) 渡邊清高 . アドバンス・ケア・プランニングとは . シンポジウム「終活」医療の現場から , 第 23 回板橋区医師会医学学会区民公開講座 , 東京 , 2018.12.16
 - 3) 落合亮介 , 本田 健 , 石原昌志 , 深澤陽子 , 坂本貴彦 , 丹澤 盛 , 太田修二 , 市川靖子 , 渡邊清高 , 関 順彦 . 免疫療法中に Pseudoprogression の診断が困難であった進行肺扁平上皮癌の 1 例 . 第 647 回日本内科学会関東地方会 , 東京 , 2018.12.8
 - 4) 矢口明子 , 木下乙女 , 早川雅代 , 沖崎 歩 , 木内大佑 , 坂元敦子 , 松本陽子 , 渡邊清高 , 若尾文彦 , 高山智子 . エビデンスが少ない領域における患者向け情報の作成・提供方法の検討 : 療養情報を例に . 第 56 回日本癌治療学会学術集会 , 横浜 , 2018.10.19

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)
なし

分担研究報告書（渡邊清高）添付資料一覧

（平成 29 年度実施 患者さんにご家族向け支援の実態調査：アンケート解析結果）

- 資料 1 調査票送付施設と回答施設
- 資料 2 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ（群馬県）
- 資料 3 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ [東京都（一部）]
- 資料 4 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ[神奈川県（相模原）]
- 資料 5 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ（福岡県）
- 資料 6 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ（熊本県）
- 資料 7 情報提供・相談支援とがん診療連携活動ニーズ（大分県）

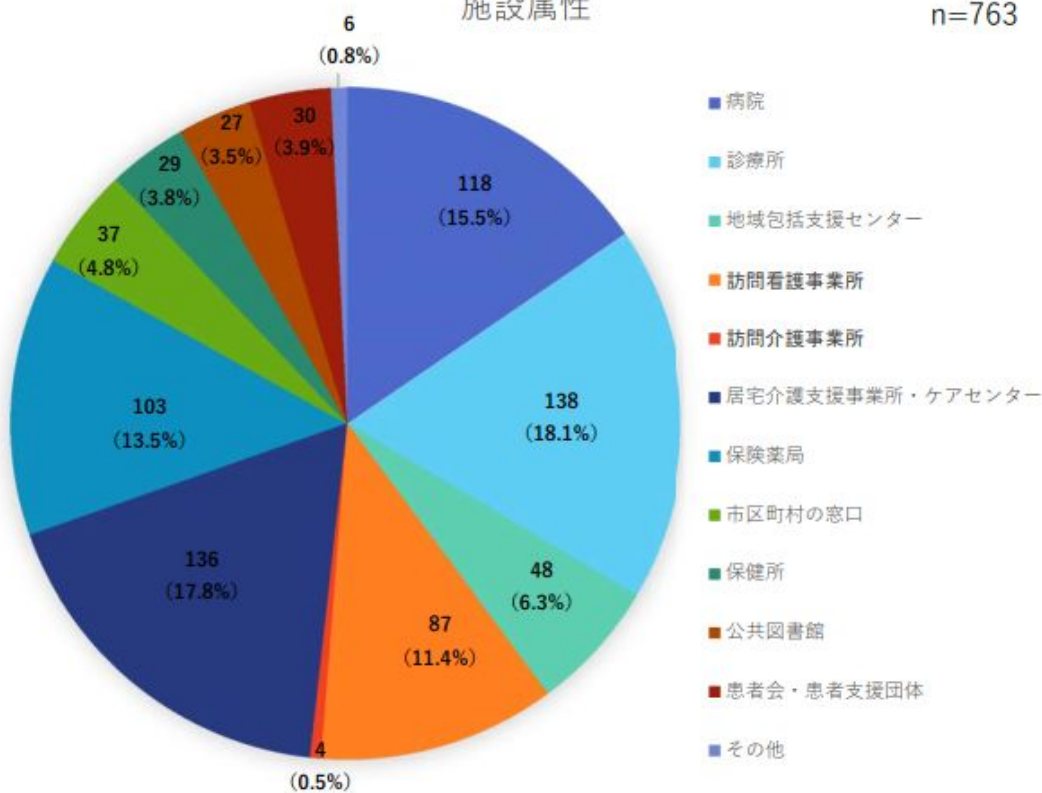
資料 1 .

「がん患者さんご家族向け支援の実態調査」 県・属性別回収数 2017年10-11月

	発送数 (回答あり施設はリスト情報を調査票情報に置換 回答なし施設はリスト情報のままカウント)	回収数	回収率
病院（がん拠点）	70	50	55.7
病院（一般）	137	68	13.2
診療所（在宅有）	346	111	32.1
診療所（在宅無）	27	27	100
地域包括支援センター	107	48	44.9
訪問看護事業所	236	87	36.9
訪問介護事業所	21	4	19.0
居宅介護支援事業所・ケアセンター	241	136	56.4
保険薬局	248	103	41.5
市区町村の窓口	102	37	36.3
保健所	43	29	67.4
公共図書館	43	27	62.8
患者会・患者支援団体	53	30	56.6
その他 連携診療所 緩和ケア施設 有料老人ホーム 特別養護老人ホーム グループホーム ケアハウス 小規模多機能施設 在宅療養支援病院 医師会など	330	6	1.8
計	2004	763	38.1

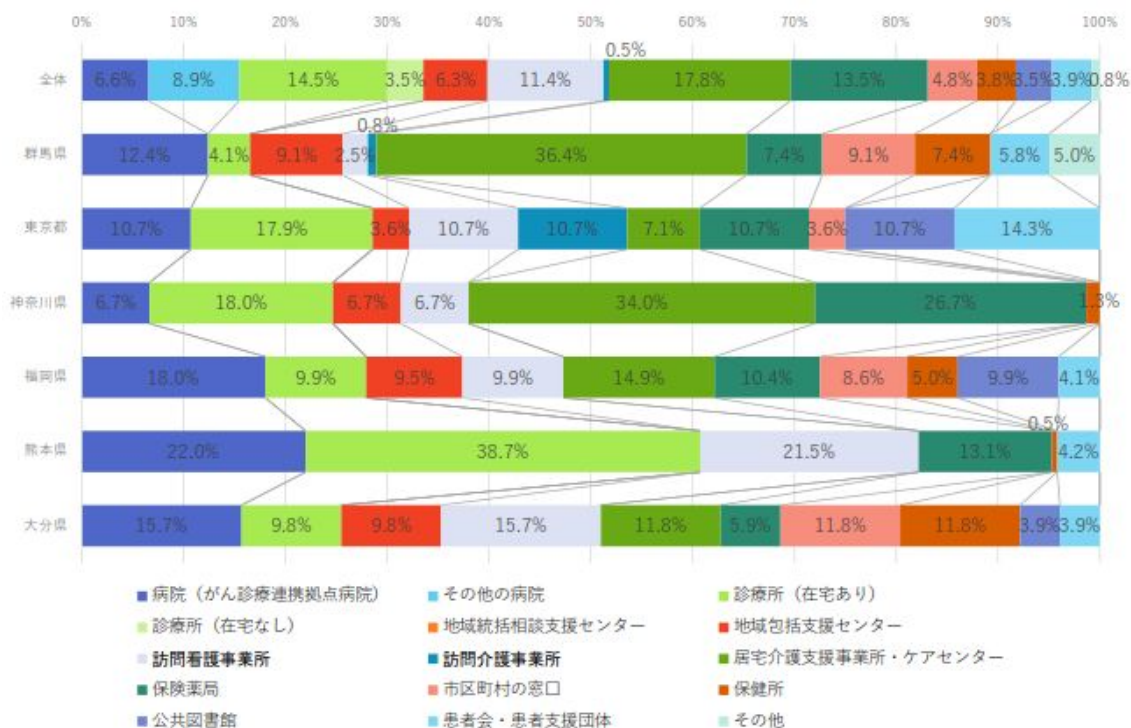
施設属性

n=763



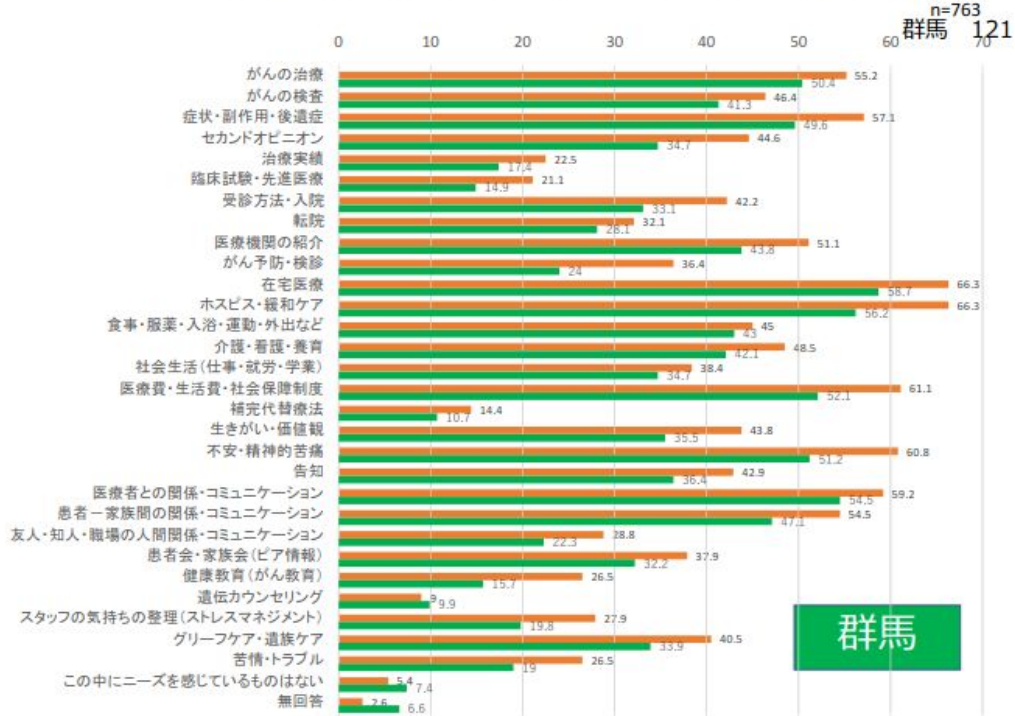
全体と都道府県別 施設属性

n=763

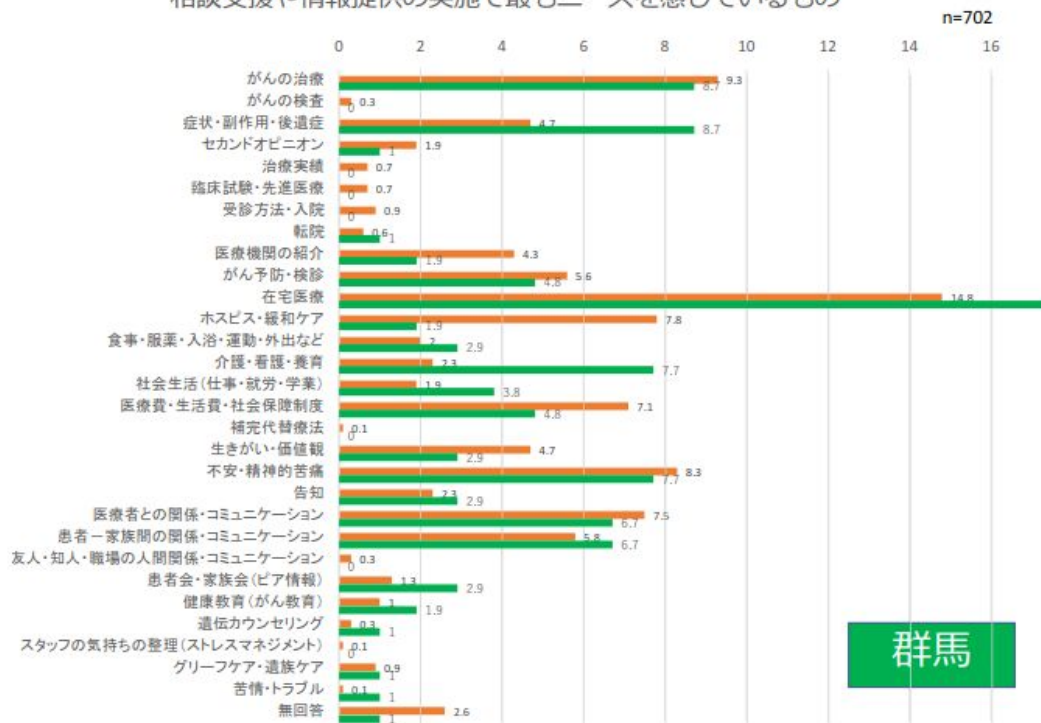


資料 2 .

相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

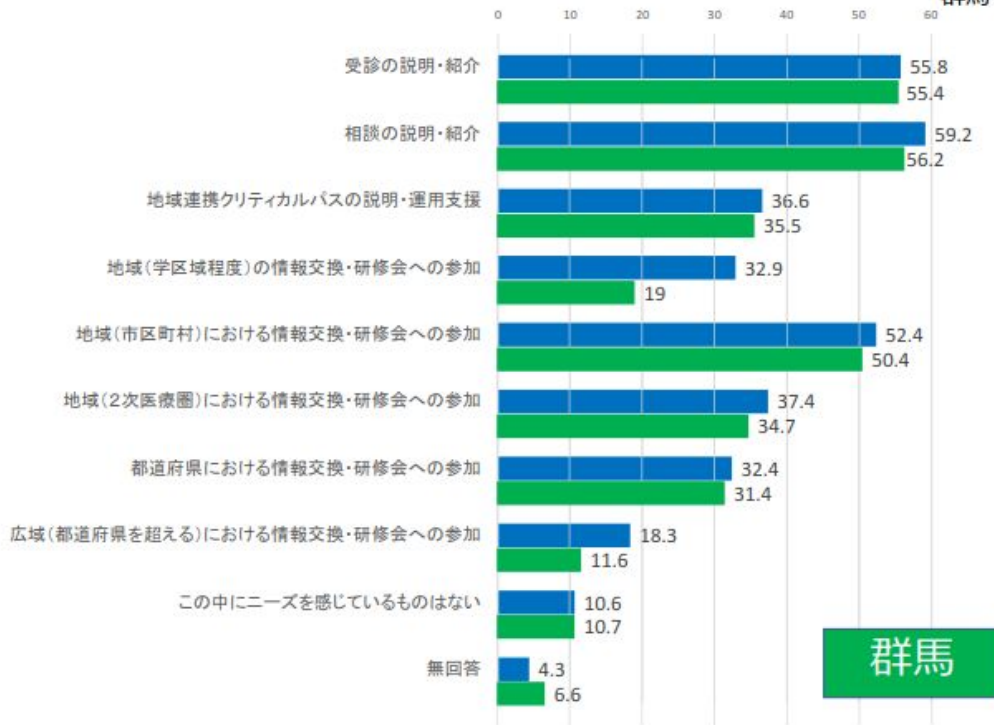


相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの

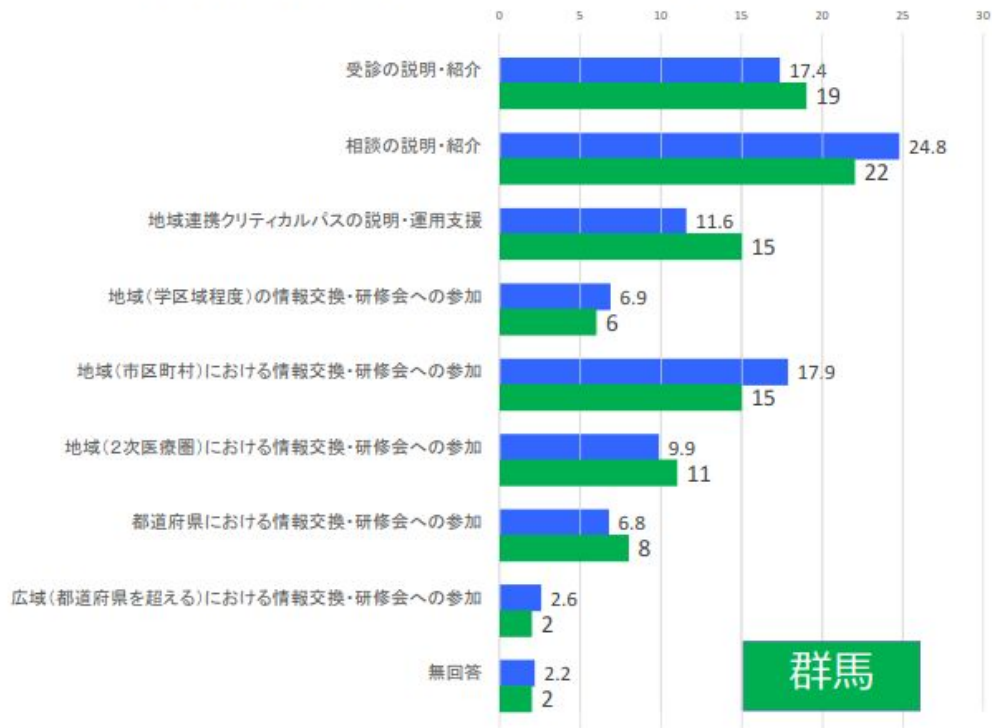


がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

群馬 121

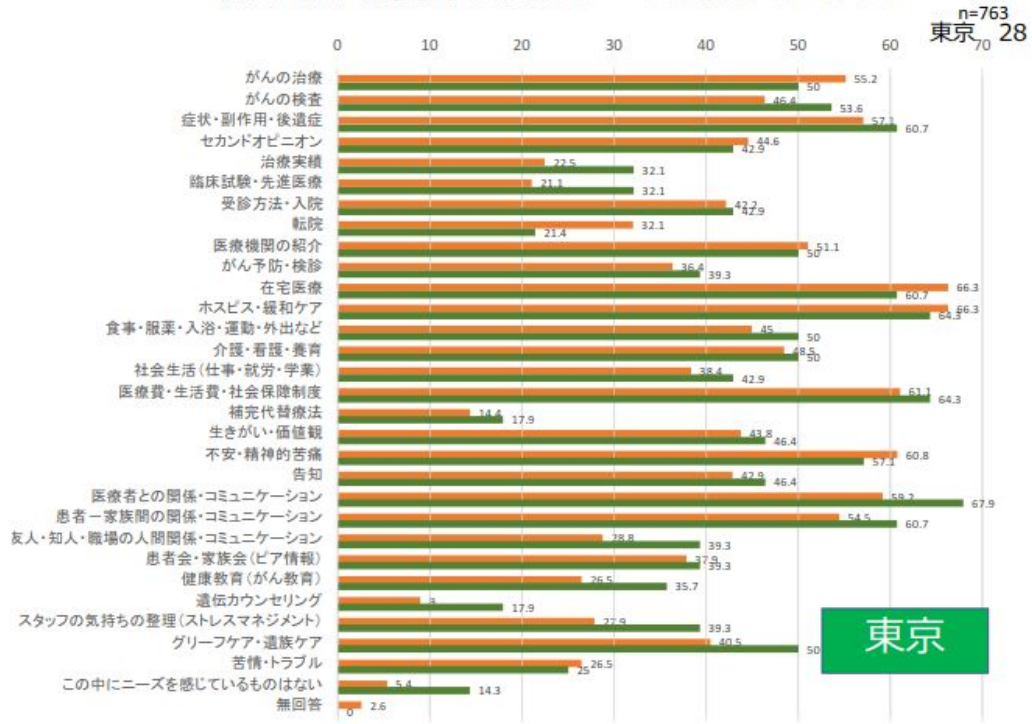


がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)

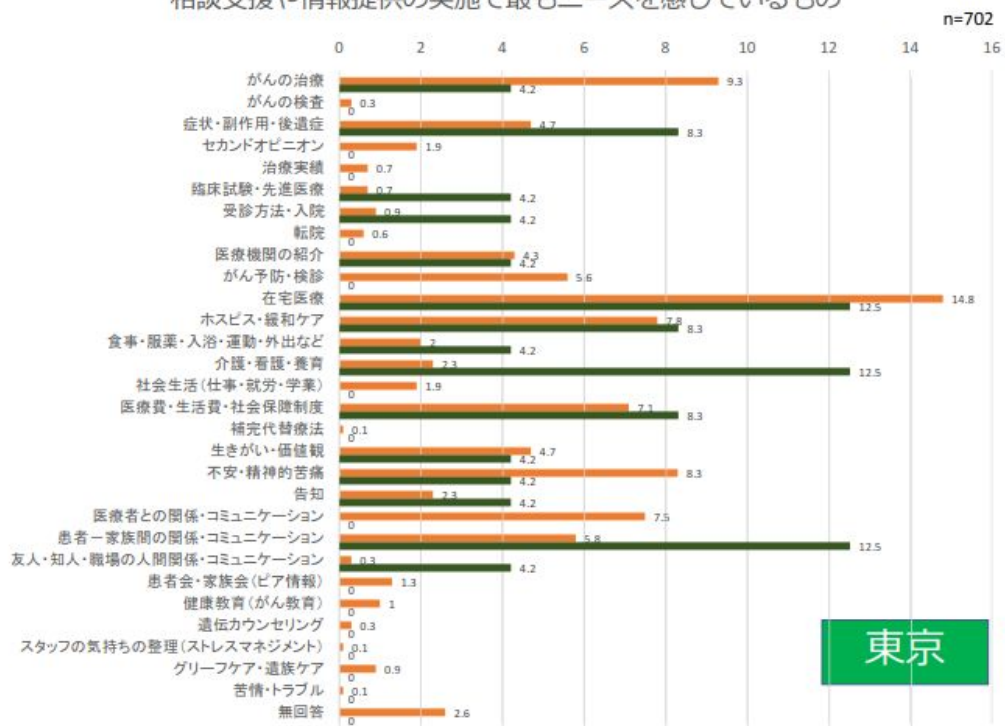


資料3 .

相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

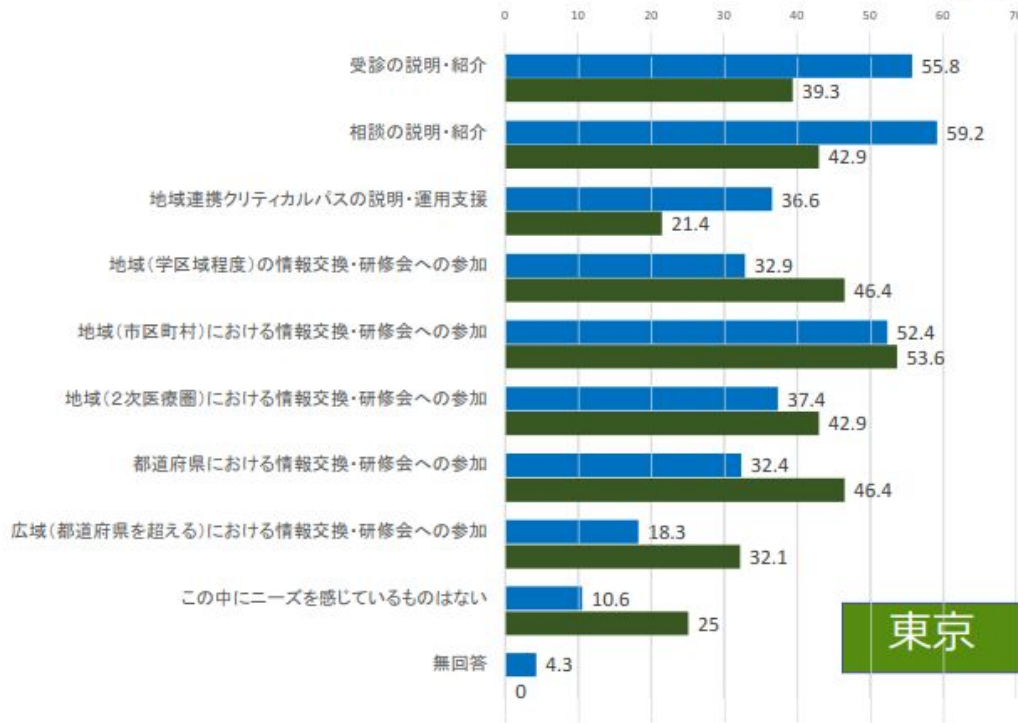


相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの

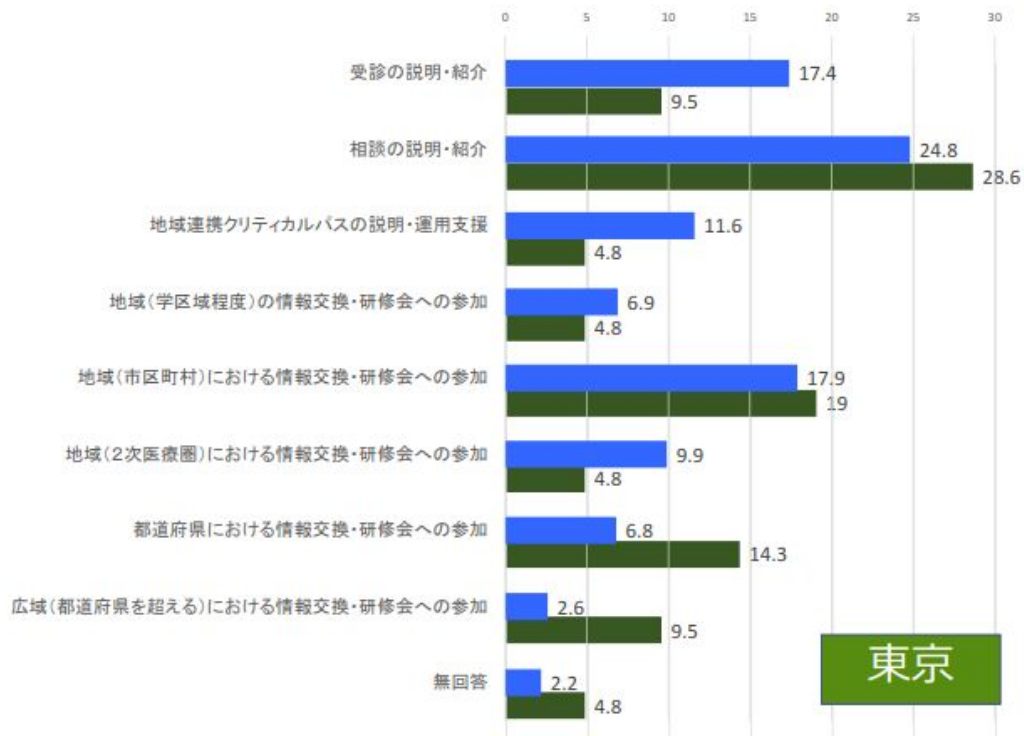


がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

東京 28

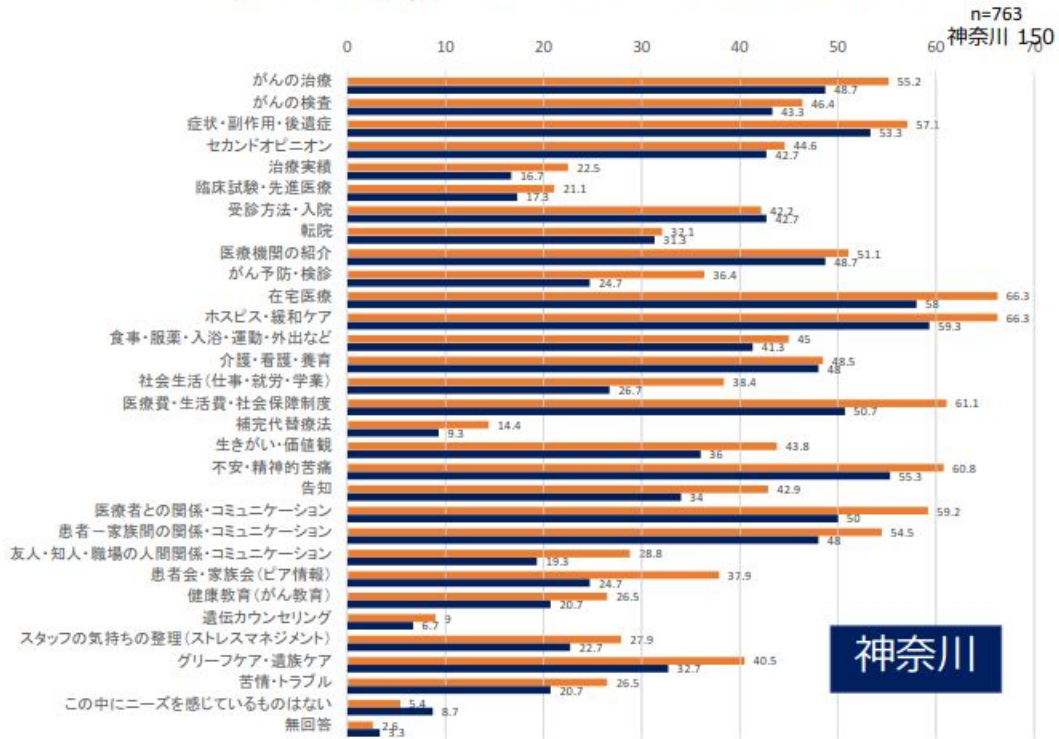


がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)

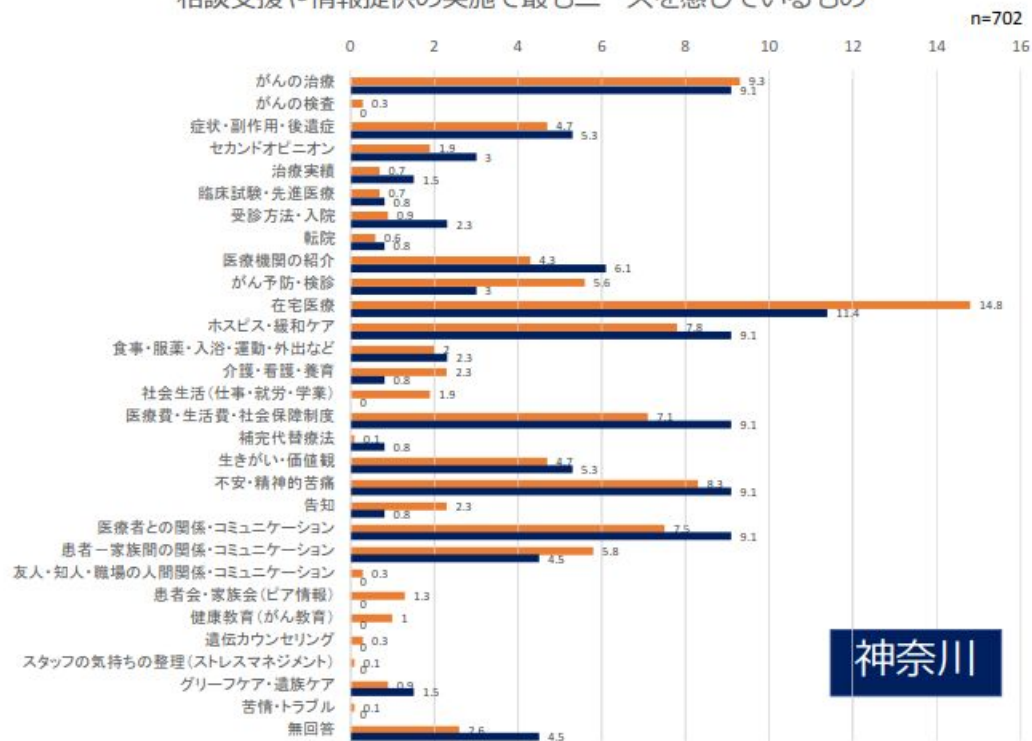


資料4 .

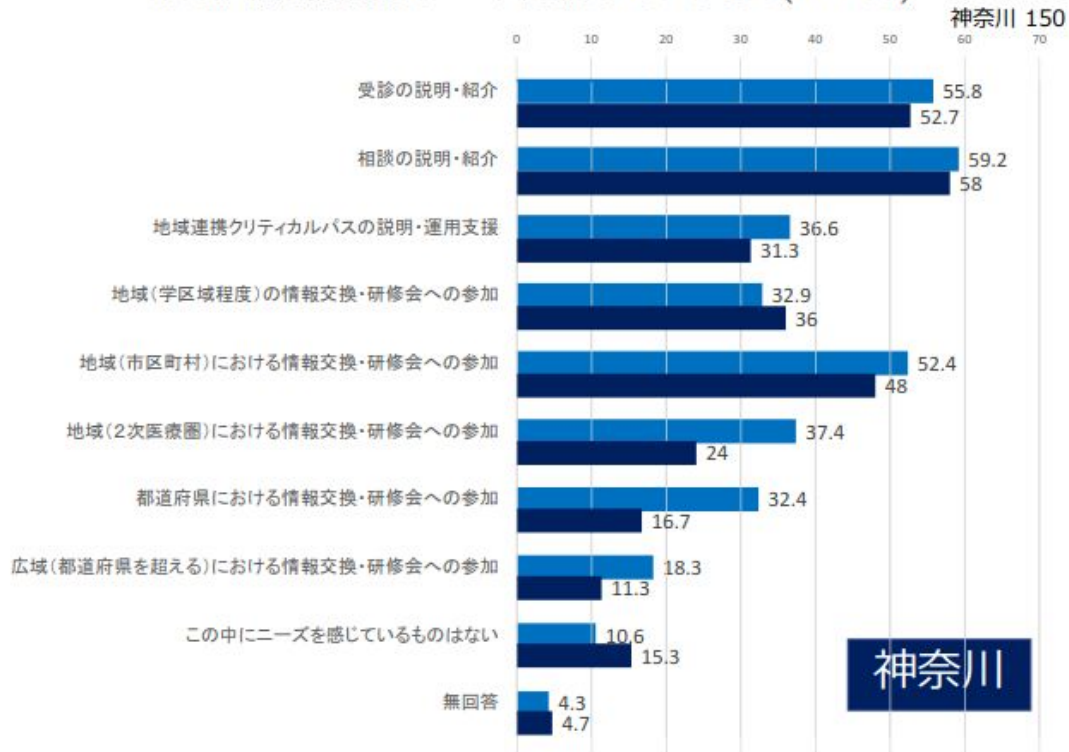
相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの



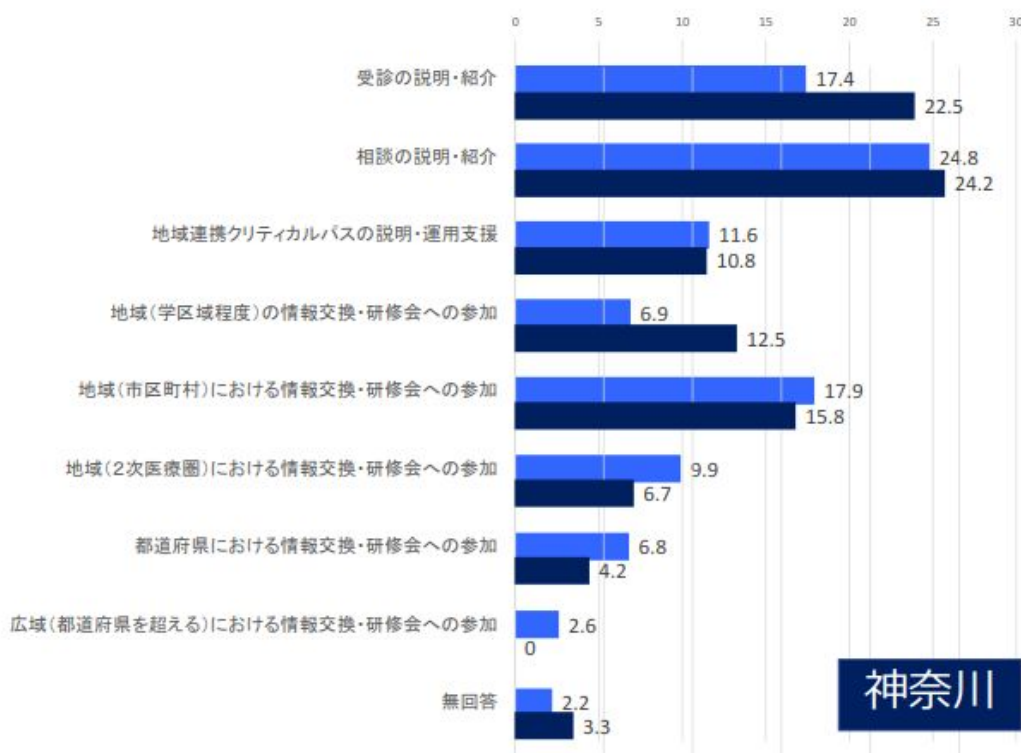
相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの



がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

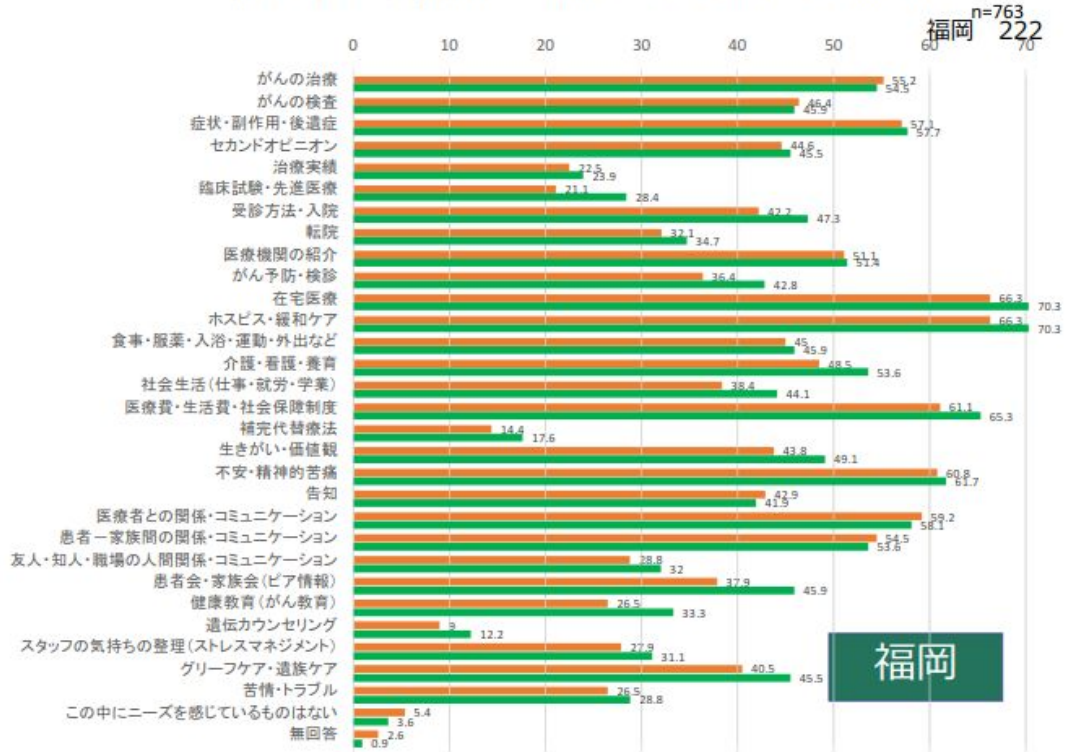


がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)



資料 5 .

相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

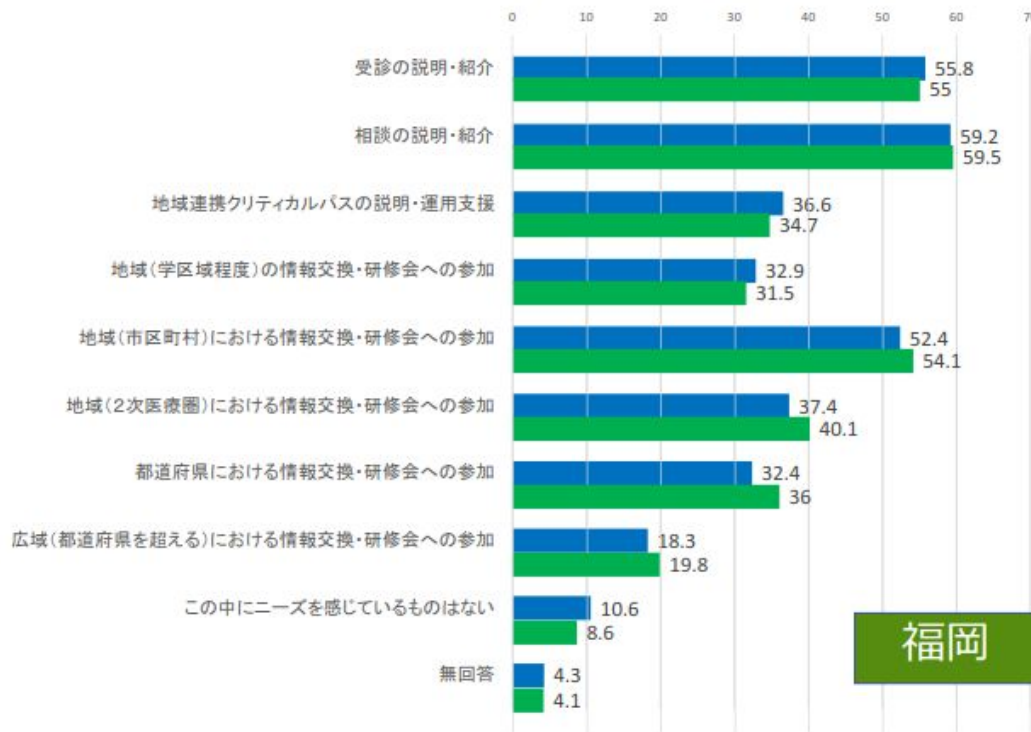


相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの

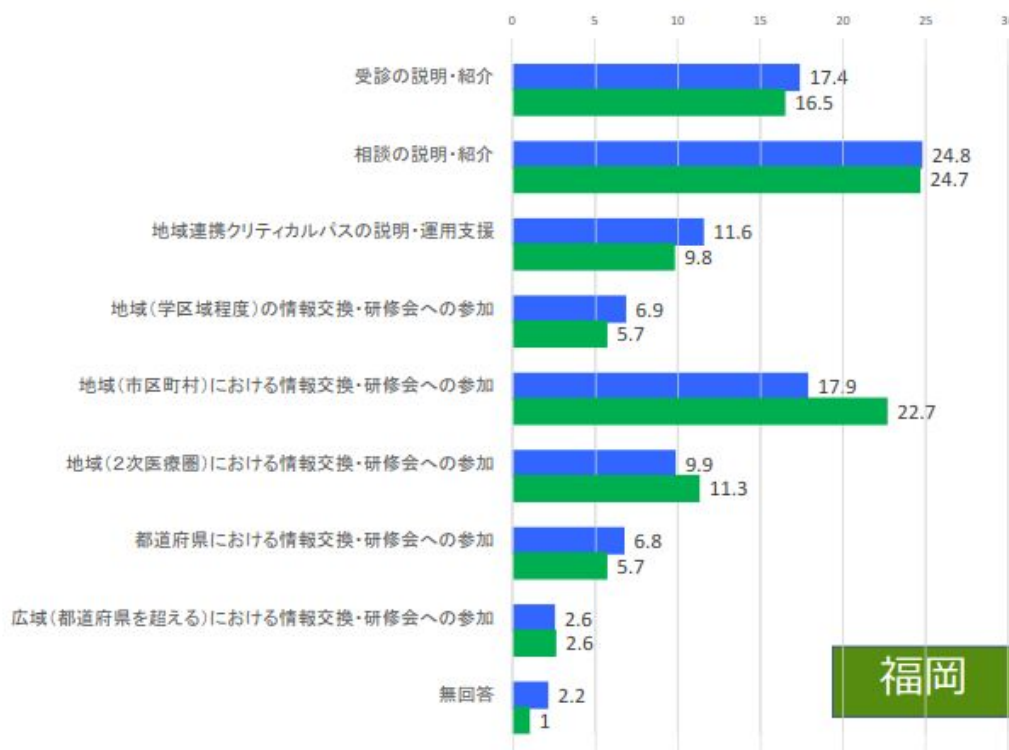


がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

福岡 222

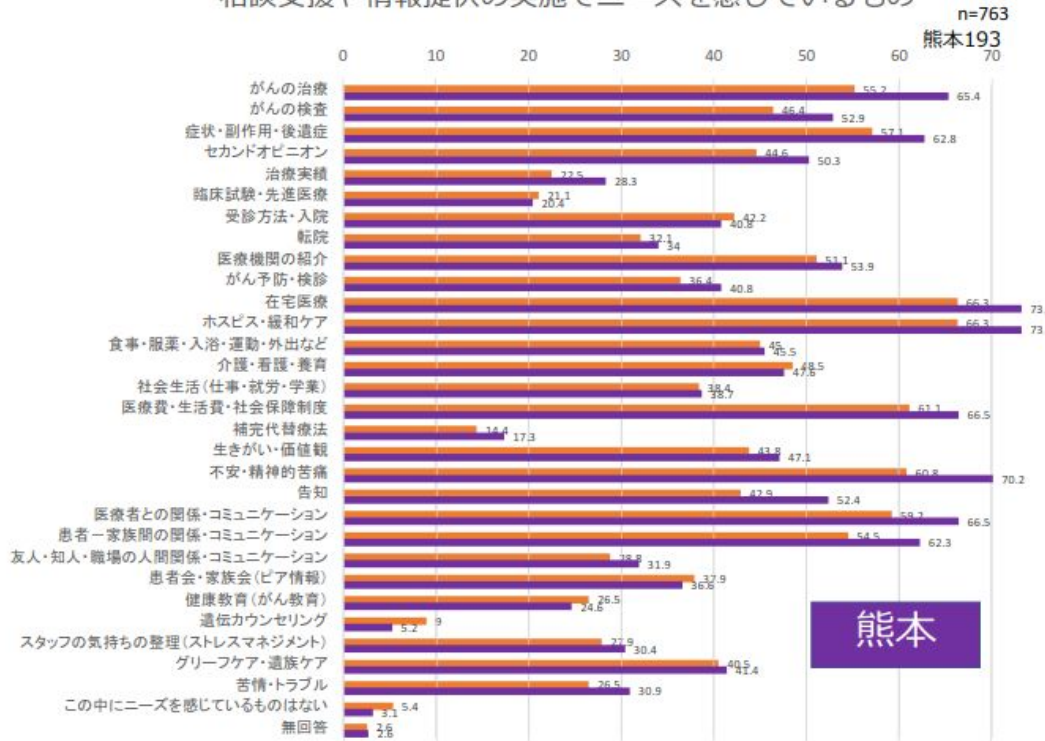


がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)

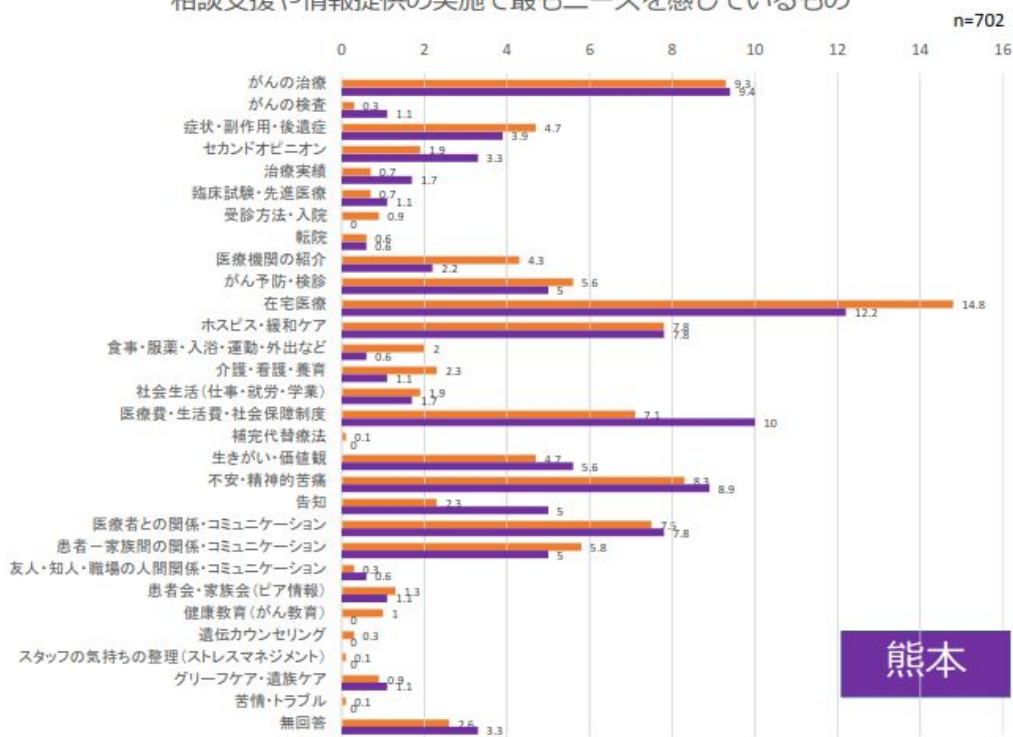


資料 6 .

相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

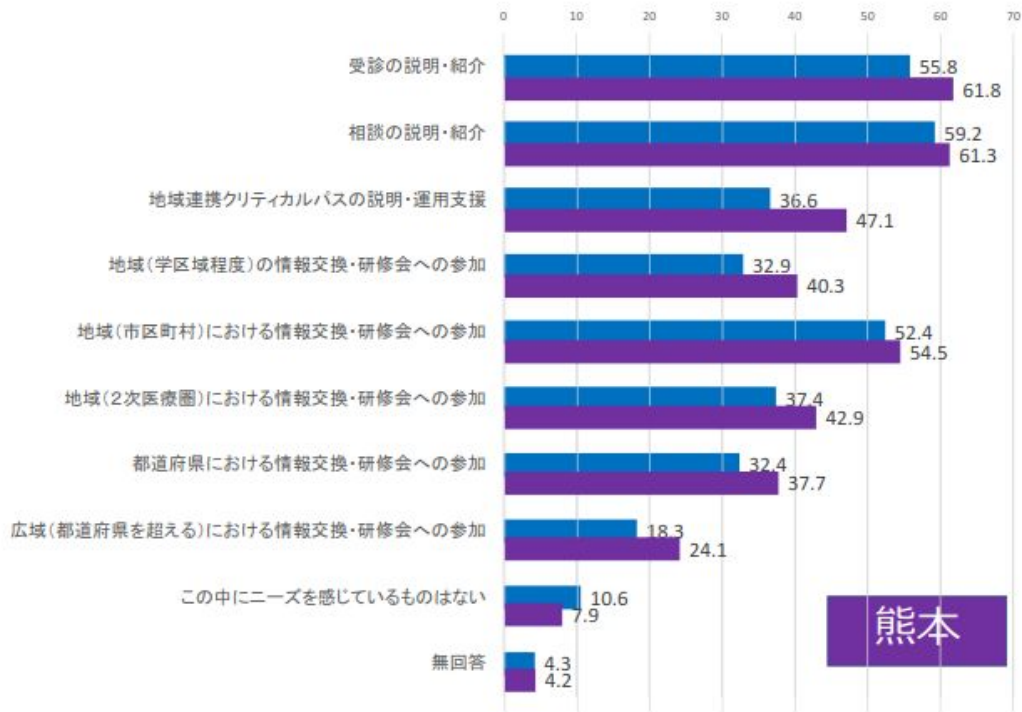


相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの

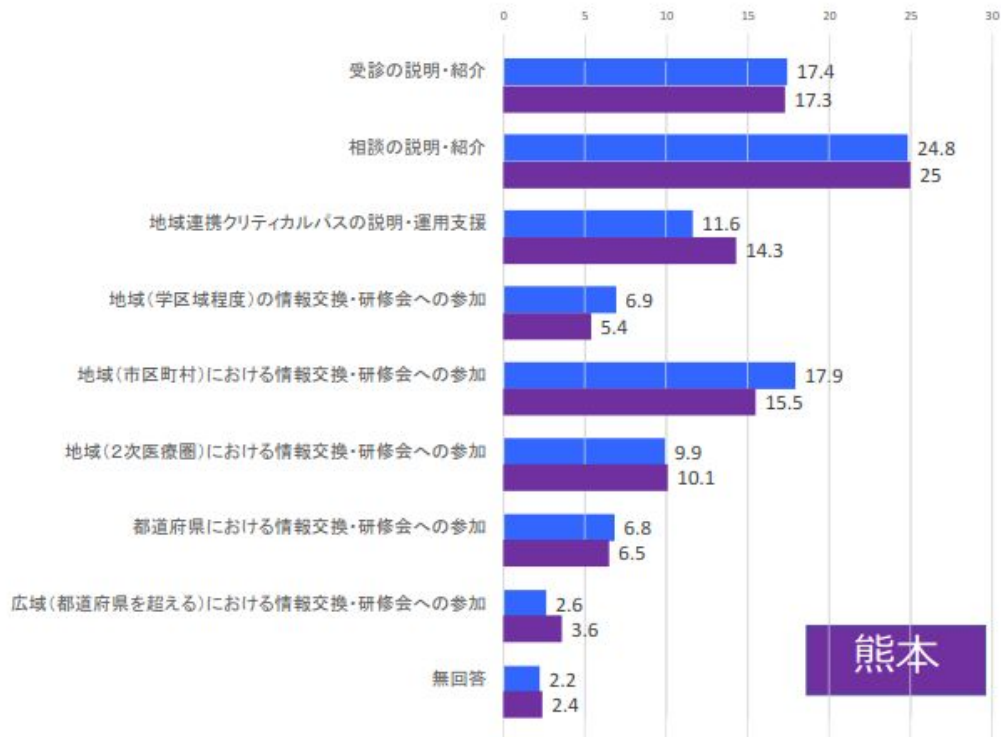


がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

熊本193

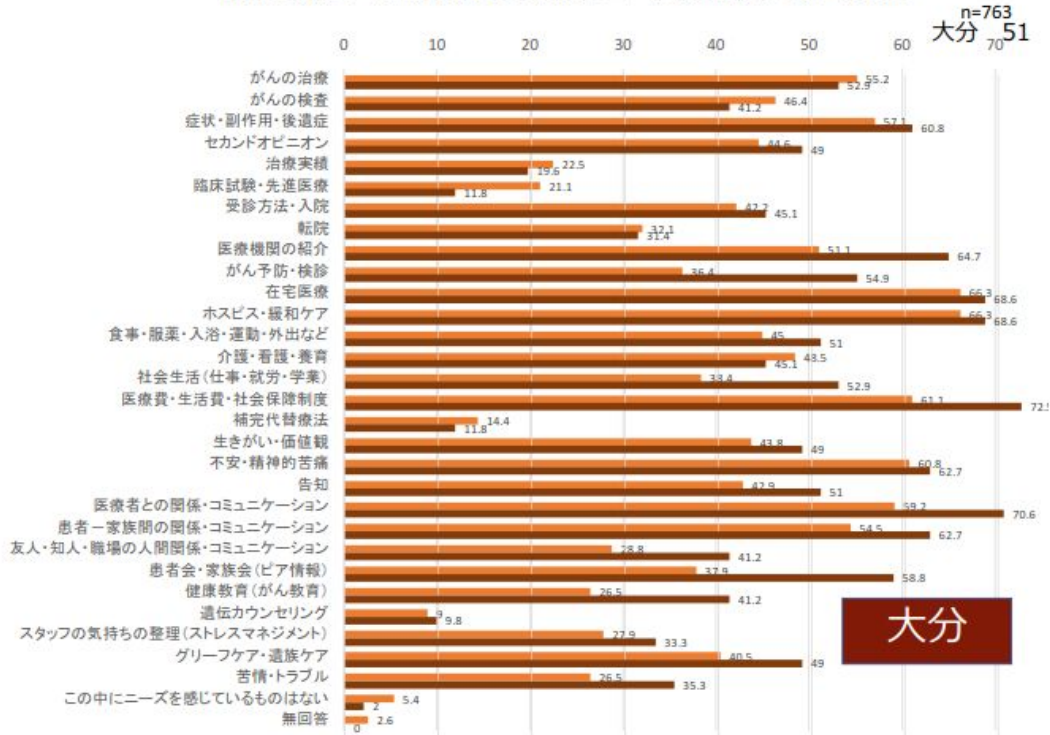


がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)

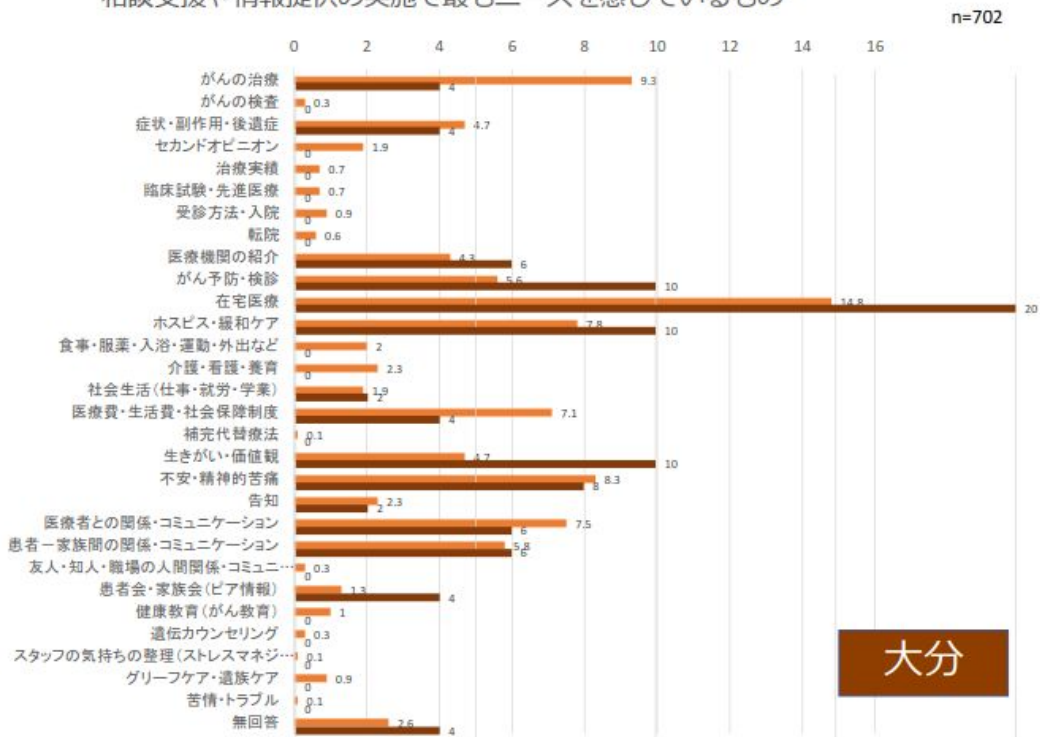


資料 7 .

相談支援や情報提供の実施でニーズを感じているもの

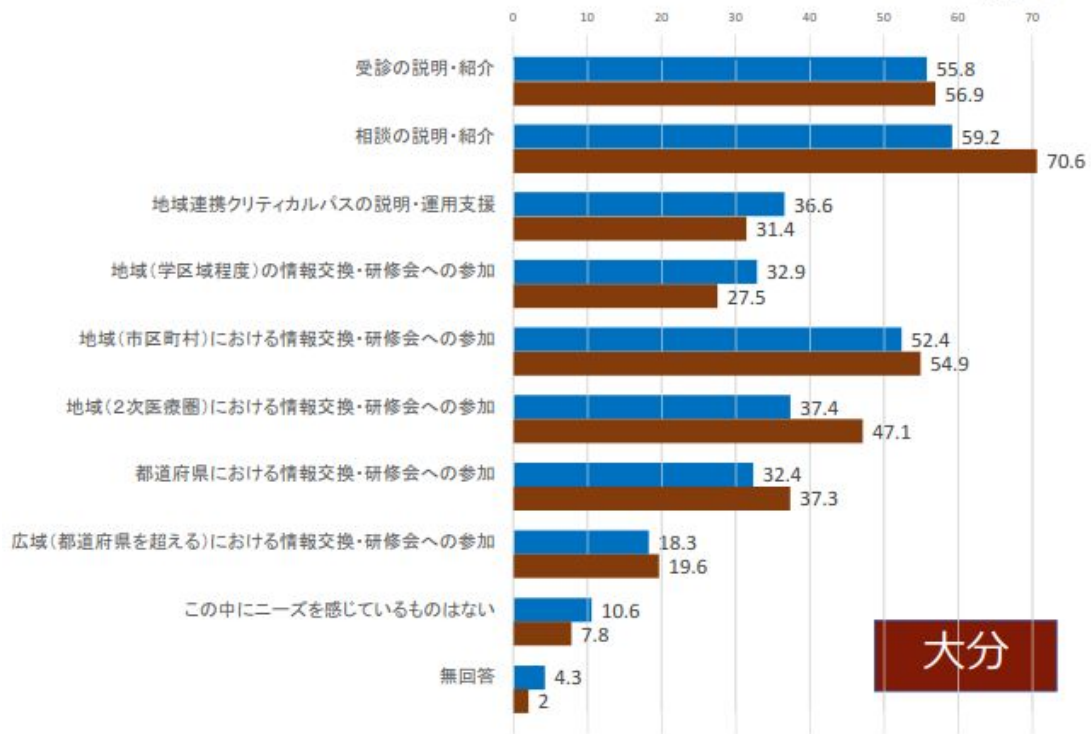


相談支援や情報提供の実施で最もニーズを感じているもの



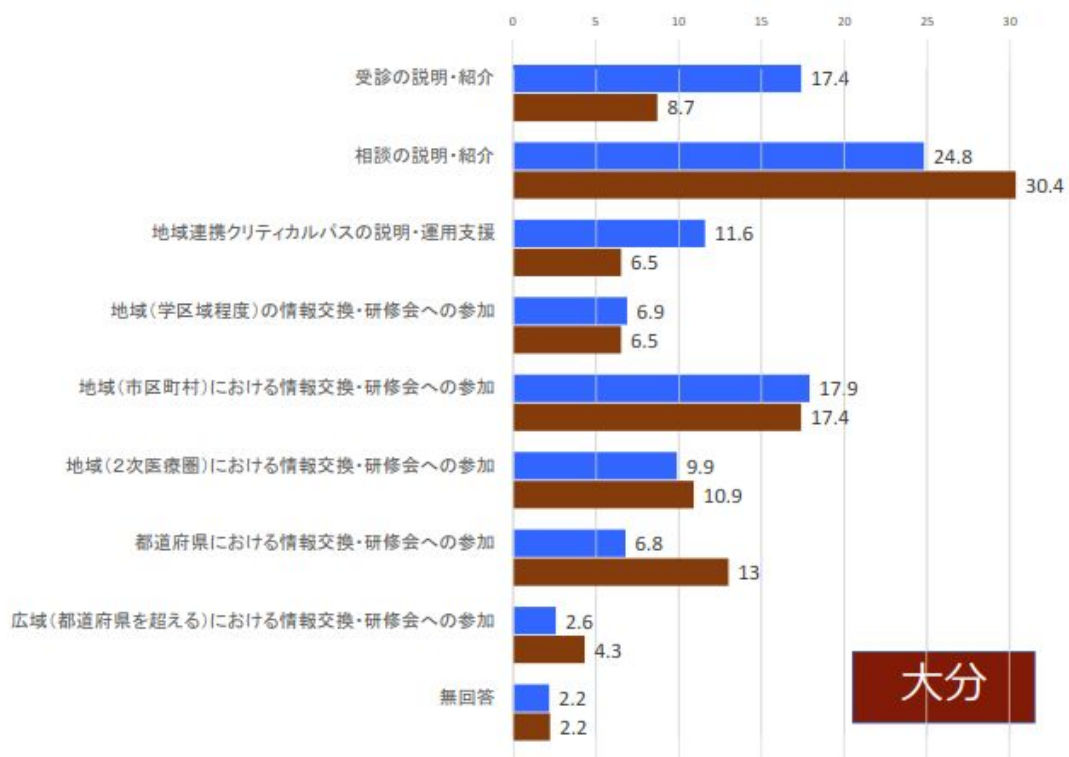
がん診療連携活動でニーズを感じているもの(n=763)

大分 51



大分

がん診療連携活動で最もニーズを感じているもの(n=649)



大分